

石川県リハビリテーションセンターニュース

目次	県高次脳機能障害相談・支援センター開所	1
	平成19年度研修会予定	2
	能登半島地震に対するリハビリテーションセンターの支援	4
	バリアフリー推進工房の活動紹介	6

石川県高次脳機能障害相談・支援センターがリハビリテーションセンター内にオープンしました

平成19年4月15日、石川県リハビリテーションセンター大研修室において、石川県高次脳機能障害相談・支援センターの開所式が行われました。開所式には患者さんの団体、家族、医療関係者ら約120人が出席しました。岐阜医療科学大学の阿部順子先生により「高次脳機能障害の方々への支援」—ネットワークの必要性と地域づくり—というテーマで基調講演が行われ、引き続き高次脳機能障害患者と家族の会「つばさ」の紹介が行われました。

高次脳機能障害とは、交通事故や脳血管障害などによって脳が損傷を受け、その後遺症として記憶や注意力などの脳機能が障害され社会生活に支障を来すものです。高次脳機能障害のある方や家族が抱えている様々な悩みに対応した相談支援を行うための拠点として「高次脳機能障害相談・支援センター」を設置しました。



〈具体的な事業内容〉

1. 相談

病気や療養上の悩みなどに関する相談や医療機関、福祉制度、患者会などの情報提供を行います。内容によってはリハビリ専門医が相談に応じたり、在宅への訪問相談にも応じます。

- ・相談時間 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 土曜日 午前9時から12時
- ・相談方法 面接（月曜日～金曜日まで要予約）、電話、FAX
- ・スタッフ 保健師、作業療法士等

ご希望の方はリハビリ専門医の相談も可能です。

（電話番号）076-266-2188 （FAX）076-266-2864

（ホームページ）<http://www.pref.ishikawa.jp/koujinou/>

2. 生活支援教室

障害のある方の生活機能の向上を図るためにパソコン教室や、外出支援などの教室を開催します。

3. 家族教室

高次脳機能障害について理解を深めたり、情報交換の場として家族教室の開催を行います。

4. 情報の発信

高次脳機能障害に関連する医療、福祉に関する情報を提供します。

5. 交流の場の提供

ご本人や家族が交流する場を提供します。

6. その他

高次脳機能障害相談・支援センターをリハビリテーションセンター内に開所したことにより、リハビリテーションセンターの機能も十分に活用し、日常生活動作等の相談支援や、福祉用具、住宅改修、就労、就学に関する相談等を行います。

平成19年度 リハビリテーションセンター研修会のご案内

1 地域リハビリテーション研修

リハビリテーション関係機関の連携を推進するための研修会です。

(1) 地域リハビリテーション研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
7月2日(月) 14:00~16:00	世界の地域リハビリテーションから学ぶ ～シカゴでの高齢者に対する地域ケアへの取り組み～ 講師：Rosaline M. Felipe (ロッケルコミュニティ病院 理学療法士 クリニカルマネージャー) 通訳：小倉 秀子 (カイザーパーマネント南サンフランシスコ病院 理学療法士)	県リハセンター	保健・医療・福祉に従事する専門職 等
10月20日(出) 14:00~16:00	世界の地域リハビリテーションから学ぶ ～オーストラリアでの医療と福祉の連携状況～ 講師：月森 奨 (豪州国際医療協会 理事)		

(2) 地域リハビリテーション実務者研修会

① 運動器機能向上セミナー

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
9月頃	運動器機能向上のための個別プログラムの立て方と具体的な実践方法について(仮) 講師：未定 *同研修4回開催	県リハセンター 能登、加賀地区	介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所介護、通所リハビリテーション、市町地域包括支援センター等職員

② 生活行為向上セミナー

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
9月頃	生活行為向上のための個別プログラムの立て方と具体的な実践方法について～認知症、閉じこもり防止・支援を中心として～(仮) 講師：未定 *同研修4回開催	県リハセンター 能登、加賀地区	介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所介護、通所リハビリテーション、市町地域包括支援センター等職員

③ 口腔機能向上セミナー

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
9月頃	口腔機能向上のための個別プログラムの立て方と具体的な実践方法について(仮) 講師：未定 *同研修4回開催	県リハセンター 能登、加賀地区	介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所介護、通所リハビリテーション、市町地域包括支援センター等職員

2 リハビリテーション専門職等研修

リハビリテーション専門職やリハビリテーションに関わる職員への知識の習得や技術の向上をめざすための研修会です。

(1) リハビリテーション医療専門職研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
6月16日(出) 14:00~16:00	脳卒中理学療法の視野を広げるために 講師：吉尾 雅春 (千里リハビリテーション病院開設準備室)	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
11月17日(出) 14:00~16:00	関節疾患に対する理学療法 講師：石井 慎一郎 (神奈川県立保健福祉大学)		
10月13日(出) 14:00~16:30	高次脳機能障害の評価と治療(仮) 講師：原 貴美 (相澤病院)		
12月1日(出) 14:00~16:30	地域リハビリテーションの最近の動向とリハビリテーションスタッフの役割 講師：太田 睦美 (竹田総合病院 介護福祉本部)		
未定	高次脳機能障害者への地域支援(仮) 講師：未定 *共催：石川県高次脳機能障害相談・支援センター		

(2) 施設職員リハビリテーション技術研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
8月7日(火)	施設におけるリハビリテーション技術研修 I	県リハセンター	介護老人福祉施設、通所介護施設、訪問介護事業所、特定施設入所者生活介護施設等に勤務する機能訓練指導員 等 (定員：50名程度)
10:00~12:00	個別評価の仕方、リハ計画の立て方 講師：卜部 弘子 (老人保健施設 和光苑 作業療法士)		
13:00~15:00	ADLの見方とアクティビティ活用具体例の紹介 講師：西谷 すずな (老人保健施設 ふいらーじゅ 作業療法士)		
8月27日(月)	施設におけるリハビリテーション技術研修 II		
9:00~11:00	基本動作の見方(寝返り、起き上がり、移乗、歩行等) 講師：正司 佳久 (老人保健施設 サンビューかなざわ 理学療法士)		
11:00~12:00	介護の知識(職場でできる腰痛予防) 講師：県リハビリテーションセンター理学療法士		
13:00~15:00	レクリエーションを取り入れた支援方法 講師：岡田 千砂 (桜ヶ丘病院 作業療法士)		

3 福祉用具研修

福祉用具に関する知識の習得や技術の向上をめざすための研修会です。

(1) 福祉用具スペシャリスト研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
6月30日(土) 14:00~17:00	障がいのある人への活動を引きだすシーティング 講師：辻 清張（福井県こども療育センター 理学療法士）	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等
1月6日(日) 14:00~17:00	自助具製作研修会～コミュニケーションを助けるスイッチづくり～ 講師：県リハビリテーションセンター職員		

(2) 福祉用具適合技術研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
11月頃	起居・移乗動作に関する福祉用具の適合について 講師：県リハビリテーションセンター職員	県リハセンター	福祉用具専門相談員、補装具契約業者等

(3) 福祉用具実技研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
10月26日(金) 14:00~17:00	コミュニケーション関連用具について 講師：県リハビリテーションセンター職員 *共催：石川県難病相談・支援センター	県リハセンター	保健・福祉機関職員 等
10月頃	福祉用具と起居・移乗について ①起居・移乗動作の基本 ②福祉用具と起居・移乗 講師：県リハビリテーションセンター職員 *同研修4回開催	県リハセンター 能登、加賀地区	

(4) テクニカルエイド普及研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
未定	テクニカルエイドの実際 ～子供の可能性を見いだす道具の活用と環境の重要性～ 講師：未定 *共催：石川県総合養護学校	未定	教職員・保護者 等

(5) 補装具に関する研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
7月25日(木) 午後	①補装具制度の概要について 講師：県更生相談所職員	県リハセンター	補装具契約業者
7月28日(日) 午後	②補装具の適合技術について 講師：県リハビリテーションセンター職員 *共催：石川県更生相談所		医療・福祉機関関係者

4 石川県難病相談・支援センター

(1) ピアサポート（ピアカウンセリング）研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
8月25日(土) 10:00~16:00	講師：宗像 利幸 他2名（JHC板橋会サン・マリーナ 施設長）	県リハセンター	40名程度
8月26日(日) 10:00~16:00			

(2) 医療機関関係者研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
10月13日(土) 13:30~16:00	炎症性腸疾患食事研修会 講師：斎藤 恵子（社会保険中央病院 管理栄養士）	県リハセンター	100名程度

(3) セルフマネジメント研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
毎月第1月曜日 (6、11、1月は 第3月曜日)	ヨーガ教室 講師：森 忠幸（社団法人ヨーガ研究所 理事）	ほっとあんしんの家 (県リハセンター内)	20名程度

(4) パソコン研修会

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
隔週水曜日 10:00~12:00	難病の方や身体に障害のある方のパソコン教室を開催 講師：パソコンボランティアの方	県リハセンター	要予約・無料

5 石川県高次脳機能障害相談・支援センター

(1) 家族教室

日 時	内容および講師	会 場	対 象 者
8、11月頃	高次脳機能障害の理解 講師：未定	県リハセンター	高次脳機能障害者の家族

能登半島地震被災者に対するリハビリテーションセンターの支援

リハビリテーションセンターでは、能登半島地震の発生後、被災地の避難所や高齢者施設に対して支援を行っています。能登地区は高齢者が多くまた核家族化が進んでおり仮設住宅に移行後も介護予防、生活不活発病予防などリハビリテーションの観点からも長期的な支援が必要です。リハビリテーションセンターが行ってきた支援について紹介します。

1. 避難所への支援

(1) 避難所のバリアフリー化対応

3月28日に門前、輪島の避難所の調査を行いました。避難施設のトイレが少なく、設置された仮設トイレはほとんどが和式のトイレであり、また段差も危険なため、高齢者には使いにくいとの指摘がありました。まず最初に（社）日本福祉用具供給協会東海北陸支部石川県ブロックとNPOバリアフリー総合研究所の協力を得て、仮設トイレの（電車式和便器）を洋式対応に変更、段差の改善を行いました。また避難所内に対してはラップ式ポータブルトイレの設置、手すりの設置等を行いました。



仮設トイレの段差の改善



仮設トイレの洋式化

(2) 避難所の生活環境改善

避難所では当初、食事も、睡眠も、日中の生活も同じ場所で行わねばならず、高齢者にとっては生活不活発病の危険があります。対策として、避難所に椅子やテーブルを設置し、寝床と食事をする空間をわけるための談話室の設置を行い、日中の活動を引き出すよう環境の改善の支援を行いました。また、エコノミー症候群対策として体操の指導を行ったほか、ポスターの掲示を行いました。また、床からの立ちあがりや歩行などに問題がある方への個別動作指導を行いました。

2. 施設緊急避難所（ショートステイ）への支援

(1) 施設緊急避難所支援物資の支給

特に避難所での生活に支障のある方が入所された、施設緊急避難所（特別養護老人ホームや、老人保健施設のショートステイ）では、福祉用具等の物資が不足したため、（社）日本福祉用具供給協会東海北陸支部石川県ブロックのご協力により、車いすや、マットレス、紙おむつ等を届けました。

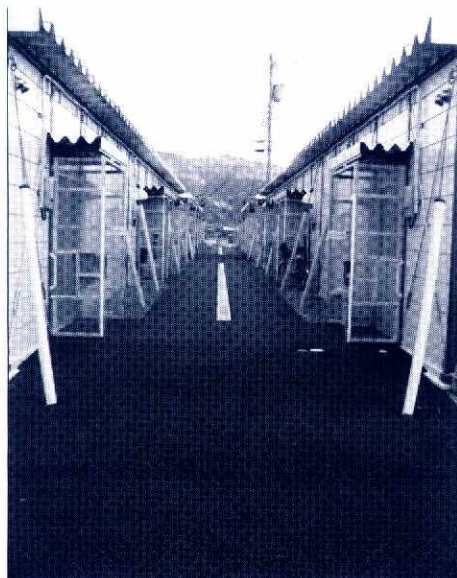
(2) 施設緊急受入者の介護状況の調査と支援

生活不活発病対策として、県健康福祉部長寿社会課と連携し緊急受け入れ施設の状況を確認し、必要な施設には受入者の生活支援を行っています。

3. 仮設住宅への対応

県土木部と連携し、敷地から玄関までのアスファルト舗装の通路確保、玄関入口の段差解消、住居内の段差解消、トイレの手すり設置などバリアフリー対応に努めました。

仮設住宅での生活に支障のある方々への個別支援に対しても輪島市、能登北部地域リハビリテーション広域支援センターと連携しすすめています。



仮設住宅の敷地から玄関までのアスファルト舗装



トイレの手すり設置



玄関入口の段差解消

今回の能登半島地震災害支援に対して、(社)日本福祉用具供給協会東海北陸支部石川県ブロック、NPOバリアフリー総合研究所の方々には多大なるご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

※日本福祉用具供給協会東海北陸支部石川ブロック（ハンダーエイド、さわやか金沢、トミキライフケア、フランスベッドメディカル、ケアプラス、ライフワン、石川医療器、北陸在宅介護センター、メデベック）メーカー協賛（アロン化成、新鋭工業、フェニックス、ピップフジモト、松下電工、メルテン、松永製作所、象印ペビー株式会社、シンコール）

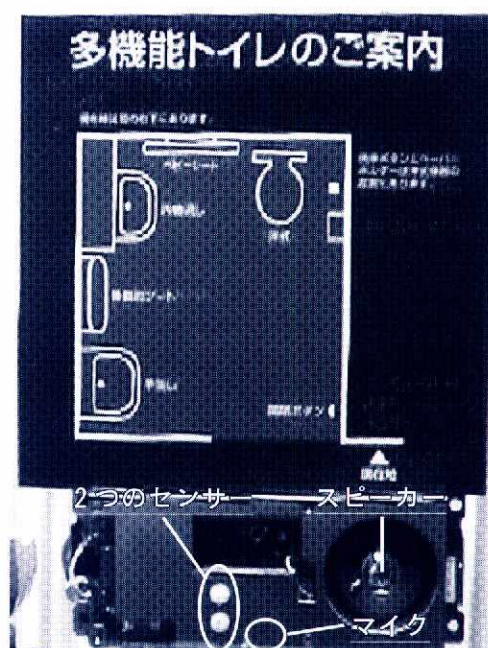
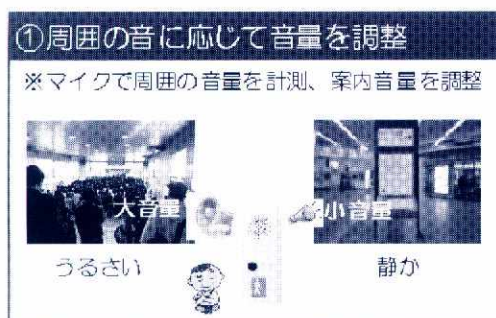
※NPOバリアフリー総合研究所（工房みずほ、ひのきや工房）

バリアフリー推進工房の活動紹介

■騒音を考慮した音声案内システムの開発

ハートビル法や交通バリアフリー法などの影響もあって、案内板や券売機、エレベータなどの設備機器に音声案内が広く普及し始めています。その一方で、「音声案内がうるさい」という苦情が徐々に増え始めているのも事実です。視覚に障害のある方などへの配慮も、騒音という問題で設置が妨げられないようにしなければなりません。

そこで騒音の原因のうち、①静かなときでも大きな音量、②必要以上に音声案内が鳴ってしまう、という課題に取り組みました。まず、安価なマイクで周囲の騒音音量を計測し、その音量にあわせて音声案内の音量を調節する機能を開発しました（図1）。さらに、適切なときだけ音声案内をするために安価なセンサーを組合せて人の動きを判断する機能を開発しました（図2）。これにより、音声案内をする場面を絞り込むことができます。例えば、トイレ前で触知図を読み取る基本行動パターンによる実験では過剰な音声案内が98.5%削減することができました。



多機能トイレの触知案内板に開発した音声システムを設置した例

編集・発行 石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町-13-1
TEL (076) 266 2866 FAX (076) 266 2864
E-mail iprc@pref.ishikawa.jp
<http://www.pref.ishikawa.jp/kousei/rihabiri>